

デジタルアーカイブフェス2025

ギャラリーを活用した自然史資料データベースの公開

ージャパンサーチと埼玉県立自然の博物館の連携事例ー

埼玉県立自然の博物館

学芸員 山岡 勇太

埼玉県立自然の博物館

- ・ 埼玉県直営の自然史系博物館
- ・ 埼玉県内の地質・動物・植物を中心に展示
- ・ 県内有数の観光地である「^{ながとろ}長瀬」の付近に立地
- ・ 秩父鉱物植物標本陳列所（1921～）、秩父自然科学博物館（1949～）を経て、1981年に埼玉県立自然史博物館として開設される。 ⇒ 前身から数えると100年以上の歴史がある



埼玉県立自然の博物館



化石巨大ザメ“メガロドン” 生体復元模型



県内の自然環境を表現した 8 mの巨大ジオラマ

データベース公開の現状と課題（ジャパンサーチ連携以前）

- ・約20万点（令和6年度時点）の収蔵資料：動物分野・植物分野・地質分野
- ・資料管理公開用のシステムが未構築で、すべての収蔵資料情報をオンライン公開できていない（現在約10万点）

背景：ネットワーク環境やランニングコストの都合上、DB管理用のシステムの導入が難しい状況

- ・ **a)資料目録** と **b) 画像・解説付きDB** の2種類に分け、別々のプラットフォームで公開中

管理用資料目録（FileMaker・桐・Excel）約20万点

動物分野DB										植物分野DB				地質分野DB			
その他の無脊椎動物	無有翅昆虫類	有翅昆虫類	その他の蜘蛛形類	魚類・円口類	軟体動物	両生類	爬虫類	鳥類	哺乳類	藻類	シダ植物	裸子植物	被子植物	化石	岩石・その他	鉱物	岩石・鉱物スライド
						多足類	ダニ類	クモ類	甲殻類	植物シナ	菌類	地衣類	コケ類				



鳥類



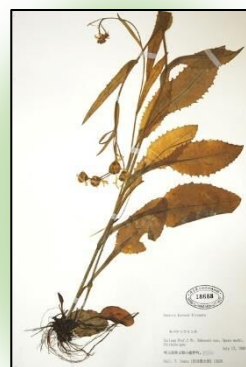
魚類



有翅昆虫類



哺乳類



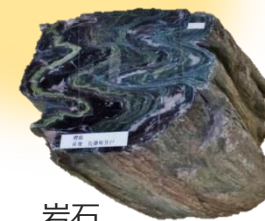
被子植物



化石



鉱物



岩石

データベース公開の現状と課題（ジャパンサーチ連携以前）

- ・約20万点（令和6年度時点）の収蔵資料：動物分野・植物分野・地質分野
- ・資料管理公開用のシステムが未構築で、すべての収蔵資料情報をオンライン公開できていない（現在約10万点）

背景：ネットワーク環境やランニングコストの都合上、DB管理用のシステムの導入が難しい状況

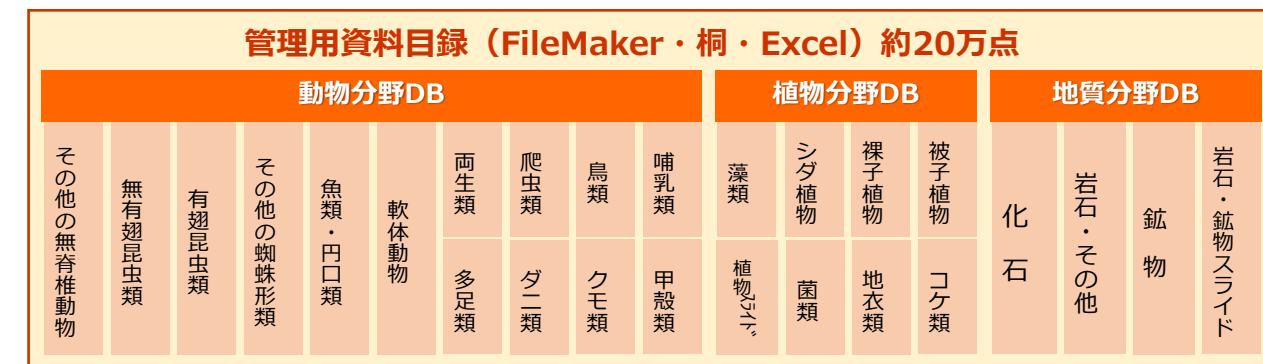
- ・ **a) 資料目録** と **b) 画像・解説付きDB** の2種類に分け、別々のプラットフォームで公開中

a) 資料目録（学術利用を想定）

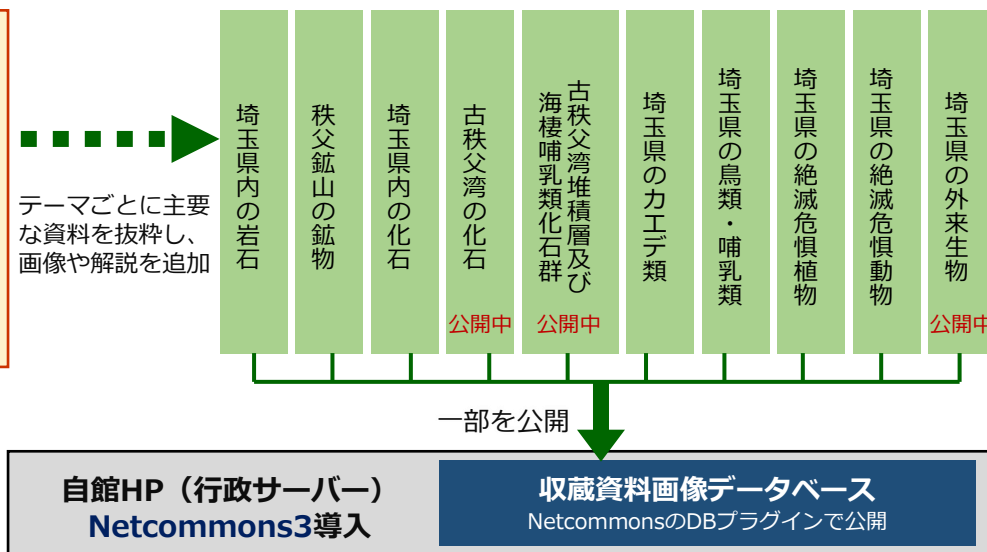
動物・植物分野の一部資料（約10万点）を、サイエンスミュージアムネット（S-Net）にメタデータ提供し、オンライン公開

b) 画像・解説付きDB（一般利用を想定）

資料の基本情報に加え画像や解説を付けたDB登録資料の一部を、テーマ別に抜粋して公開



一部資料（10万点）のメタデータを提供



b) 画像・解説付きデータベース（一般利用を想定・自館HP上で公開）

1. 画像・解説付きDBの選択ページ



参考：上記のQRコード

<https://shizen.spec.ed.jp/%E5%8F%8E%E8%94%B5%E8%B3%87%E6%96%99%E7%94%BB%E5%83%8F%E3%83%87%E3%83%BC%E3%82%BF%E3%83%99%E3%83%BC%E3%82%B9>

課題：自館HP上でDBを編集・公開するにはデザイン上の制約が大きく、DBそのものの認知度も低い

2. 資料一覧ページ



3. 資料の解説ページ



今後のデータベース公開方針

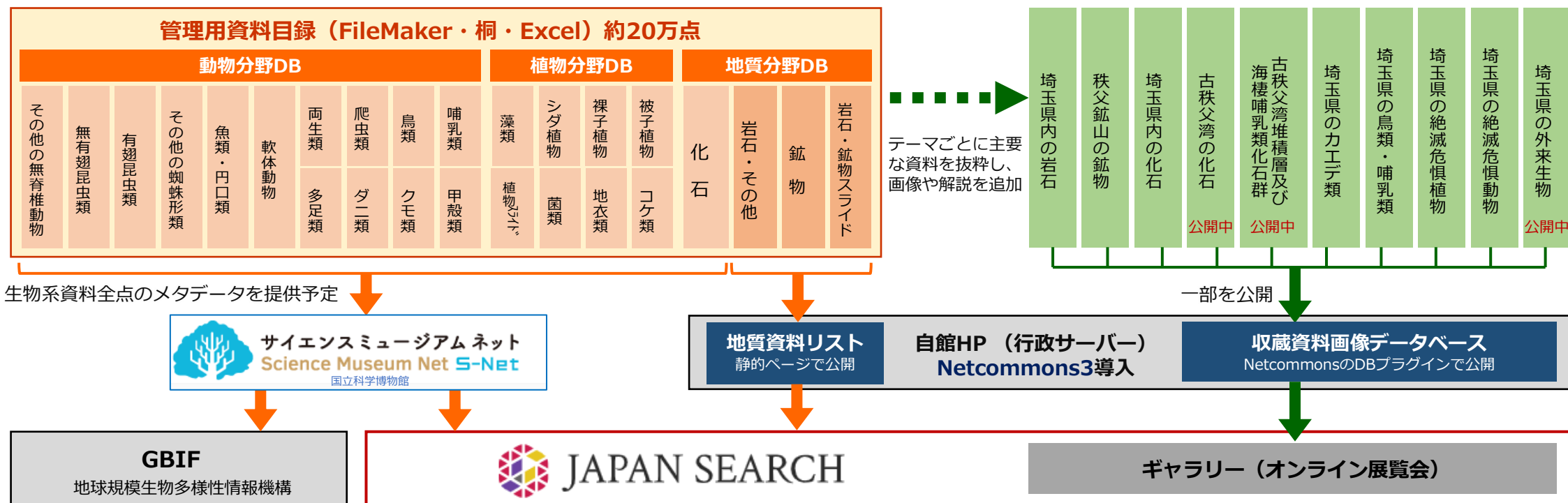
最終的には **a)全点資料目録** を公開し、同時並行で **b) 画像・解説付きDB** の公開作業を進める
その過程で、**b) 画像・解説付きDB** を公開するための **利便性や認知度の高いプラットフォームがほしい**

a) 全点資料目録（学術利用を想定）

登録資料全点のメタデータを公開予定。生物系資料はS-Netにメタデータ提供し、地質資料は自館HPに静的ページで公開予定

b) 画像・解説付きDB（一般利用を想定）

資料の基本情報に加え画像や解説を付けたDB
登録資料の一部をテーマ別に抜粋して公開



..... ジャパンサーチの「ギャラリー」を活用

博物館側から見た「ギャラリー」のメリット

- ・ テーマごとにコンテンツをまとめて解説したオンライン展覧会ができる
- ・ 認知度や視認性が高く、専門家以外の方も利用しやすい
- ・ テーマに応じて様々なレイアウトで資料を紹介できる
- ・ 編集や更新作業が比較的容易

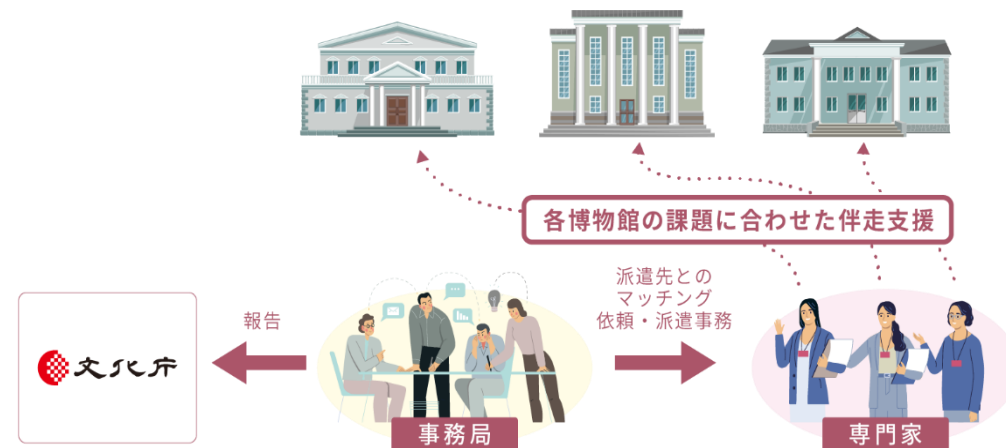
公開中のギャラリー：古秩父湾堆積層及び海生哺乳類化石群

(画像引用：ジャパンサーチギャラリー)



ゼロスタートではハードルが高いので...

- ・ **令和6年度博物館機能強化推進事業**（専門的人材派遣による博物館支援と職員の資質向上に関する調査研究）に応募し採択
- ・ **DBの公開方針、ジャパンサーチとの連携方法、ギャラリーの編集方法**について、専門家から計3回の現地支援を受けた
(支援内容は、各館の抱える課題に応じて異なる)



(画像引用：文化庁HP)

ジャパンサーチ連携への道

1. ジャパンサーチへのDB登録

- ・ ジャパンサーチ連携機関に博物館が参加 ⇒ 埼玉県を取りまとめである「県立熊谷図書館」に依頼（事前）
 - ・ 連携予定のDB（ **b**） **画像・解説付きDB**）を自館HP上にて公開（事前）
 - ・ 公開中のメタデータと画像をジャパンサーチ用に整える（約 1 時間）
 - ・ 管理画面でメタデータを一括アップロード（約30分～ 1 時間）
- } 専門家による支援

2. ギャラリーの作成

- ・ 作成したいギャラリーの構成を考える
- ・ ギャラリーの作成及び編集方法の習得（4時間） ⇒ 専門家による支援
- ・ 管理画面上でのギャラリー作成作業（約 1 時間～）



※かかったコスト

- ・ 金銭的成本： 0 円（備品費・謝金等ナシ）
 - ・ 時間的成本： 専門家のレクチャーを含め、延べ10時間ほど作業
- ⇒ 文化庁補助事業による恩恵が大きい

DB「こちちぶわん たいせきそう古秩父湾堆積層及びかいせいほにゅうるいかせきぐん海生哺乳類化石群」

- 国指定天然記念物「古秩父湾堆積層及び海棲哺乳類化石群」のうち、自然の博物館が所蔵する9件の哺乳類化石を解説したDB



パレオパラドキシア骨格化石



チチブクシラ骨格化石

「古秩父湾」とは？

- 約1700万～1500万年前（新生代新第三紀中新世）に、秩父地域に広がっていた海。
- 古秩父湾の盛衰を物語る代表的な露頭（地層が見える崖）6件と、当時の海に生息した海棲哺乳類の化石9件が、「古秩父湾堆積層及び海棲哺乳類化石群」として、平成28年に国の天然記念物に指定。



パレオパラドキシア





公開中の画面



主な使用パーツ

●トップ画像：自館HPからリンク

●テキストパーツ：DBの概要説明

●画像パーツ：文章だけではわかりにくい
内容は画像を使って説明



公開中の画面



編集画面



主な使用パーツ

- **年表パーツ**：古秩父湾の4つの時代に分けその変遷を紹介

※開始年と終了年について
1700万～1500万年前は年表に入力できない（当時）。
編集画面では代替りの数字を入力し、非表示にすることで対応。

- **画像パーツ**：各時代の説明や、指定化石・露頭の紹介

● **子ページ**：天然記念物の指定露頭の説明へ



公開中の画面



主な使用パーツ等

● **トップ画像**：ジャパンサーチ上に新規アップロード

● **解説付き画像パーツ**：写真のどこを見ればいいのか、解説付き画像パーツで説明。

● **外部サイト埋め込みパーツ**：所在地を埋め込み地図で紹介

● **画像パーツ**：現地へのアクセス情報を紹介



公開中の画面

パレオパラドキシア化石 6件

鯨類化石 3件



パレオパラドキシア
埼玉県立自然の博物館
1977年に横浜国立大学の学生(当時)によって発見・発掘され、坂本(1983)によって報告された標本で、椎骨や肋



パレオパラドキシア(臼歯・下顎等)
埼玉県立自然の博物館
1951年11月に、当時の秩父第二中学校の生徒と教員によって秩父市寺屋の荻



パレオパラドキシア?の指骨
埼玉県立自然の博物館
1986年、前原の不整合に近接した皆野町大淵より発見され、坂本(1988)によって左第2中足骨(前原標本)とされ



パレオパラドキシア
埼玉県立自然の博物館
1972年に地元の高校生らによって秩父市大野原築瀬で発見され、1975年と1977年の2回に分けて秩父自然科学博



パレオパラドキシア
埼玉県立自然の博物館
1981年に小鹿野町般若の秩父セメント砕石場(現在の般若の丘)より発見され、埼玉県立自然史博物館準備室



パレオパラドキシアの一種
埼玉県立自然の博物館
1978年、埼玉大学の学生によって小鹿野町産山小金沢の河床より発見された。前原標本に次いで古い時代の標





パレオパラドキシア
Paleoparadoxia tabatai

登録元データベースで開く

自然史・理工学 所蔵・所在:埼玉県立自然の博物館 収録:古秩父湾堆積層及び海棲哺乳類化石群 画像検索

場所:秩父市大野原築瀬 時間/時代:新第三紀中新世

1972年に地元の高校生らによって秩父市大野原築瀬で発見され、1975年と1977年の2回に分けて秩父自然科学博物館によって発掘された。肋骨を含む世界で2体目に発見されたパレオパラドキシアの全身骨格で、特に頭骨から腰骨までの骨がよく保存されている。先に発見された泉標本(岐阜県土岐市産出の全身骨格)にはなかった部位が含まれていたため、泉標本と大野原標本を組み合わせて、パレオパラドキシアの完全な全身骨格の復元が可能となった。

ID: VeF33_gallery

分野1: 地質

分野2: 脊椎動物化石

資料名(名称): パレオパラドキシア

学名(英名): Paleoparadoxia tabatai

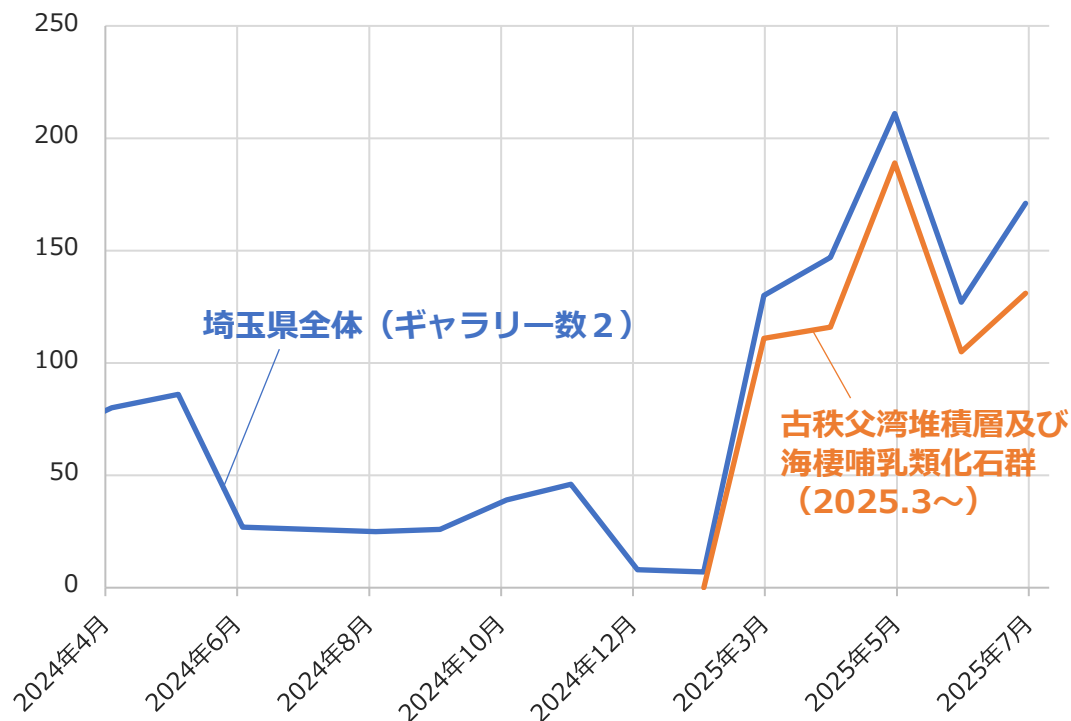
登録番号: SMNH-VeF33

分類: 東柱目パレオパラドキシア科

自館DB内への
リンク

アクセス数の推移

ギャラリーへのアクセス数（月ごと）



- ・ひと月に約100～190件の閲覧数（子ページを含む）
⇒ 日に3件～6件アクセス
- ・埼玉県が公開中のギャラリー（2件）のうち、約8～9割の閲覧数
- ・ジャパンサーチ連携後、SNSでの告知を実施
- ・ジャパンサーチHPに「新規ギャラリー」、「特色あるギャラリー」として掲載

- ・DBの認知度をより上げるためには、様々な媒体を利用した周知や、公開後の計画的な利活用が必要

ジャパンサーチと連携して（本事業の成果）

- ・データベースの認知度が上昇し、公開の自由度が広がった

博物館でデジタルアーカイブを構築・活用する意義について

- ・様々な事情により展示できない資料を紹介できる
- ・地域内にとどまらず、国内や世界に向けた情報発信が可能
- ・教育活動や研究活動の活性化
- ・マスターデータのバックアップにも

ジャパンサーチに期待すること

- ・より分野横断的なコンテンツが揃うプラットフォームへ
⇒ 自然史系資料との連携強化や、自然史資料を紹介する上で便利な機能の拡充

